

## (6) 糖尿病内科

2012年度は、半田、猪原のほかに新たに金澤寧彦医師がメンバーとして加わり、マンパワーは一気に充実しました。外来は昨年同様小山一憲医師が週1日非常勤として加わり、青木洋敏医師も週1日続行出来ているため、毎日行われています。曜日によっては2ブースで診療できるようになりました。4月からは、透析予防外来も開始しております。糖尿病から透析に移行する患者様を一人でも減らそうというのが狙いです。

糖尿病の外来患者数は多いのですが、電カル導入後、一人の患者様にかかる時間がさらに長くなり、以前のように多くの患者様を診ることが困難となりました。比較的軽症の患者様は近隣の診療所をお願いするなど、病診連携に頼っています。今年度は特に、新棟移転、電カルの導入などに振り回され、特に前半は外来患者数を伸ばすことができませんでした。また、毎年続けてきた学会発表も手が回りませんでした。

昨年から導入したCGMS（持続血糖モニターシステム）によりいくつかの興味深いデータが観察され診療に役立っています。

昨今は、医学の進歩や患者様の要求の多さなどから診療レベルが高くなってきていますが、当院の診療レベルも高く保つよう努力を続けたいと思います。

また、当院のコ・メディカルにはやる気のある人が多いので、療養指導士の資格を持っている人をさらに増やしていきたいと考えています。さらに、現在療養指導士の資格をもっている看護師全員が糖尿病教育などにもっとかかわりを持てるよう、糖尿病療養指導をさらに充実させたいと考えています。

今後の目標として、

1. 今のレベルを落とさず、患者様にさらに質の高い医療を提供すること、
2. 当院は糖尿病学会の教育認定施設であるため、（今年度は中断しましたが）学会発表を続けるほか、論文の執筆や、院内勉強会を続けること、  
などがあげられます。

(文責：糖尿病内科 部長 半田 みち子)

## (7) 腎臓内科

2012年度も常勤医師の移動はなく、竜崎内科部長、小林医長、滝本医長、宍戸医長の常勤医4人体制で診療ならびに初期研修医・後期研修医の指導を行いました。

入院症例の主な内訳としては、腎生検施行18例(IgA腎症8例・膜性腎症2例・微小変化群1例・顕微鏡的多発血管炎2例、多発血管炎性肉芽腫症1例、腎硬化症4例)、原発性アルドステロン症検査入院2例、クッシング症候群検査入院1例、高血圧緊急症3例、免疫抑制療法7例、血漿交換1例、急性腎不全8例、CKD教育入院11例、シャント作成22例、長期留置透析用カテーテル挿入1例、血液透析導入32例、腹膜透析導入5例、PTA施行10例、近隣クリニックからの透析患者の入院受け入れ45例、CHDF施行2例、エンドトキシン吸着療法2例となります。また外来は、月曜から金曜までの毎日の専門外来に加えて腎機能改善外来、HD/PD選択外来を継続としており、結果、外来～入院を通して各種腎炎・二次性高血圧の診断・治療、

保存期腎不全から末期腎不全までの各ステージに応じた対応、急性血液浄化療法といった当科専門領域全般に渡っての診療を行いました。

2012年度の特記すべきこととしては、内シャント作成を心臓血管外科医の協力の元に、当科宍戸が中心となり行うようになったことが挙げられます。ブラッドアクセスの作成・管理を透析医療に従事する当科が中心となっていくことは、穿刺に適したアクセスの作成・維持のために重要であり、今後も継続していく方針です。

また2012年度よりリウマチ内科・糖尿病内科との合同カンファレンス、および泌尿器科との合同カンファレンスを開始いたしました。患者様のmeritはもちろんのこと、各医師にとっても良い勉強の場になっています。

さらに前年度同様、日本透析医学会・日本腎臓学会・日本高血圧学会・神奈川腎研究会・川崎腎病理研究会などの各学会への参加・演題発表を行い研修医の指導・各医師のスキルアップに努めています。

(文責 内科医長 小林 絵美)

## **(8) 神経内科**

2012年度、神経内科は外来のみ非常勤医師による対応で、月曜日午後岩崎慎一医師、水曜日午後秋山久尚医師、金曜日午後荻原悠太医師の3外来を開いて外来診療を行いました。外来および入院患者のコンサルテーションも、外来患者の診療中または診療後をお願いしています。

(文責 神経内科部長 鈴木貴博)

## **(9) 肝臓内科・消化器内科**

2012年度は4月に消化器内科の中村光康部長が退職されました。中村先生は短い期間ではありましたが、後進の先生方の指導を積極的にしていただきました。その後の常勤医は肝臓内科の石黒部長、高松医長の2名となりました。診療はこれまでと同じように肝疾患を中心に消化器内科全般を対象としました。

5月に病棟の移転があり、肝臓内科は5西病棟、消化器内科は5東病棟の配置となりました。肝生検、PEITなどの肝疾患の患者は主として5西病棟にて診療を行い、また5東病棟では消化器センターの内科部門の担当として診療を行いました。

今年度の処置等は肝生検16件、PEIT 2件、RFA 1件、肝血管造影10件(内TACE 10件)でした。

今年度は新棟に移り診療体制の再構築を行った1年でした。

(文責 内科担当部長 石黒浩史)